

【大会規定】

- 1 チームの登録選手は11名以上25名以内とする。(ジュニアの部は、2年生、1年生の構成とする。)
- 2 出場選手は、2025年度連盟登録済みで同年度発行審査証を携帯する者に限る。
 - ・チーム責任者、監督、コーチも同様とする。
- 3 オーダー表記入選手は20名以内で、登録されたチーム責任者、選手、監督、コーチ、マネージャーのみベンチ入りすることが出来る。
 - ・審査は登録選手全員行う。
- 4 組合せの若い番号が1塁側ベンチ、後番号が3塁側ベンチに入る。
- 5 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 6 試合開始60分前には球場に到着し、直ちにオーダー表5部、投球数記録副表3部を大会本部に提出し、前試合4回終了までに所定の審査を受ける。
- 7 オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
- 8 試合前のシートノックは行わない。
- 9 試合開始予定時刻にチームが到着していない場合、球場責任、責任審判が協議して没収試合を宣言できる。
- 10 試合はレギュラーの部 2時間7回、ジュニアの部 1時間30分 6回とする。
 - 準決勝までは延長戦は無し、タイブレーク(1死満塁)で勝敗を決する。
 - 決勝戦は、レギュラーの部2時間20分、ジュニアの部1時間50分で、時間内であれば2回まで延長戦をする。
 - 勝敗がつかない場合はタイブレーク(1死満塁)で勝敗を決める。
- 11 4回終了時10点差、5回終了時7点差の場合はコールドゲームとする。
- 12 降雨、日没等その他の理由により試合続行不可能と成った場合、4回以降であればコールドゲームが成立、3回以内であればサスペンデットとし、次の試合日に再開する。
 - 但し、4回以降同点の場合、終了時の出場メンバー全員で抽選を行う。
- 13 投手の投球制限……………添付「中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン」を適用
 - ・本大会前日の他の大会、練習試合も投球制限規定の対象と成りますので、大会本部及び球場責任者に申告をお願いいたします。
 - 尚、後に違反が確認出来た場合、ペナルティーを科することも有りますのでご注意ください。
- 14 ①監督、コーチの指示伝達は1試合で攻撃2回、守備2回の計4回とする。延長に入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)
②守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば自動的に投手交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板出来ない。
③内野手が2人以上投手のところにいった時も1回に数える。
④指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒」以内とする。
- 15 1イニングで同一投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手交代となる。その投手は他の守備位置につくことが出来るが、同一イニングに投手として登板出来ない。但し、新しいイニングに入れば再び登板出来る。
- 16 審判員の判定に対する抗議は認めない。但し、ルールの適用についての確認は認める。
- 17 ルールの適用についての確認は監督のみ有り、監督不在の場合はコーチが代行する。
- 18 監督またはコーチが投手に対する指示などをするときには、マウンドのところで行う。
- 19 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
- 20 ボール回しをするときは一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
- 21 投手は走者をアウトにする意思がないのに、無用のけん制を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行を妨げるになるため禁止する。
- 22 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具(マスク、捕手ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ)を2組備えること。
- 23 ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
- 24 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 25 グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従う。
- 26 大会中の負傷については、応急処置は行うが、それ以上の責任は問わない。
- 27 ベンチ内での携帯電話の使用は禁止する。
- 28 光化学スモッグの発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
- 29 その他本大会規定に定めのないものは、日本少年野球連盟の定めるところによる。